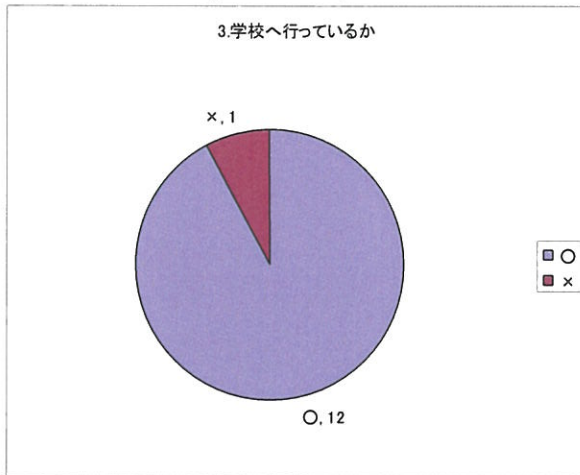


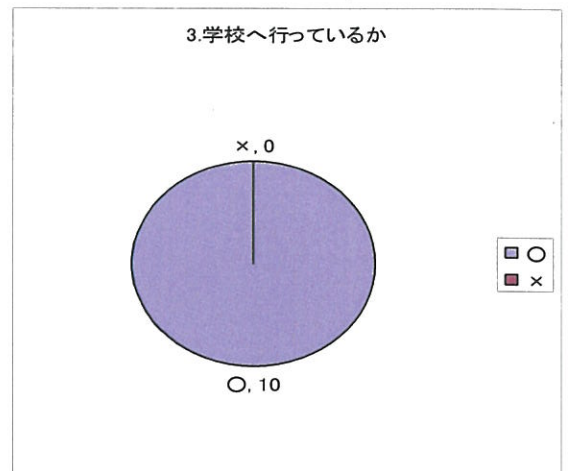
Steung Meanchey スラムは出身地が広範囲に渡っているのに対し、Rolear Kor I スラムは狭く、また、プノンペン、あるいはプノンペン近郊に位置している。興味深いのは、Steung Meanchey スラムにおいて、ベトナム出身、あるいは近郊のスヴァイリエン出身者が全体の半数を占めている点である。

(3) 学校へ通っているか

Steung Meanchey スラム

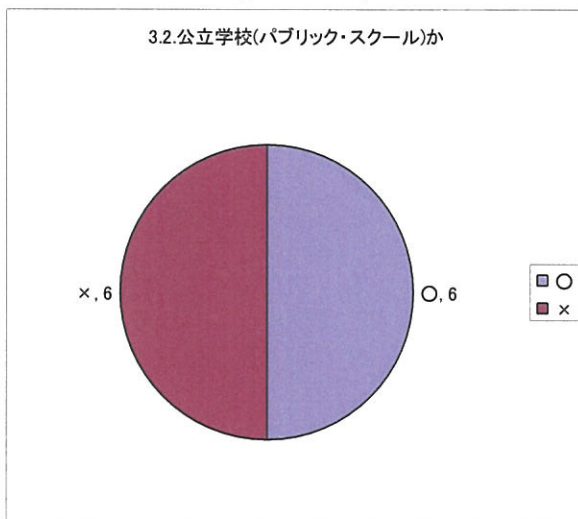


Rolear Kor I スラム

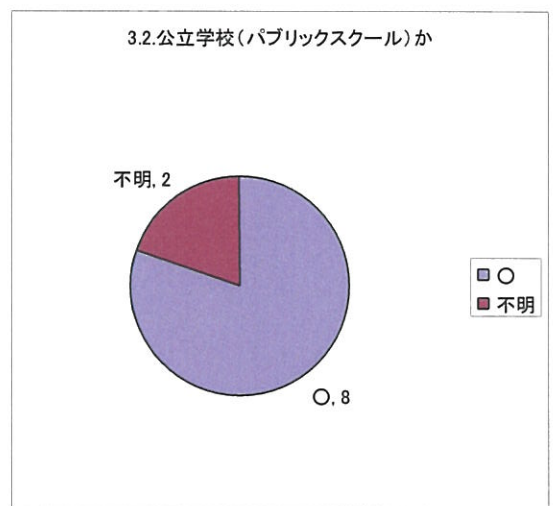


(3.1) 公立学校(パブリック・スクール)か

Steung Meanchey スラム



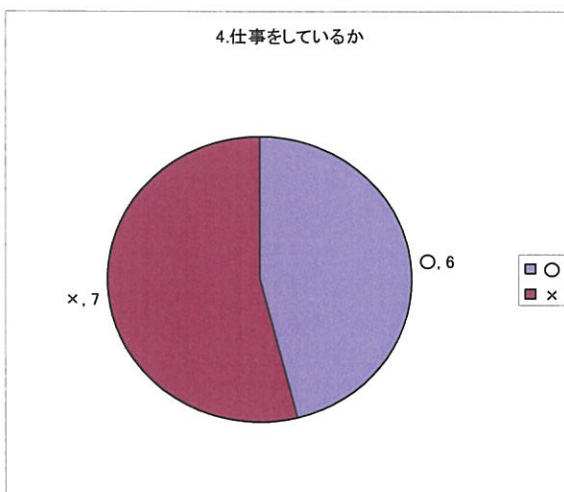
Rolear Kor I スラム



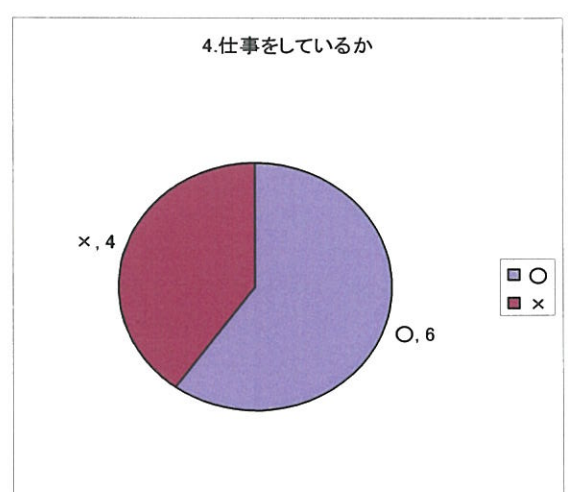
学校へ通っている子どもは予想以上に多かったが、それがパブリック・スクールかどうかとなると、やはりノン・フォーマル教育を受ける子どもも多いようである。

(4) 仕事をしているか

Steung Meanchey スラム



Rolear Kor I スラム

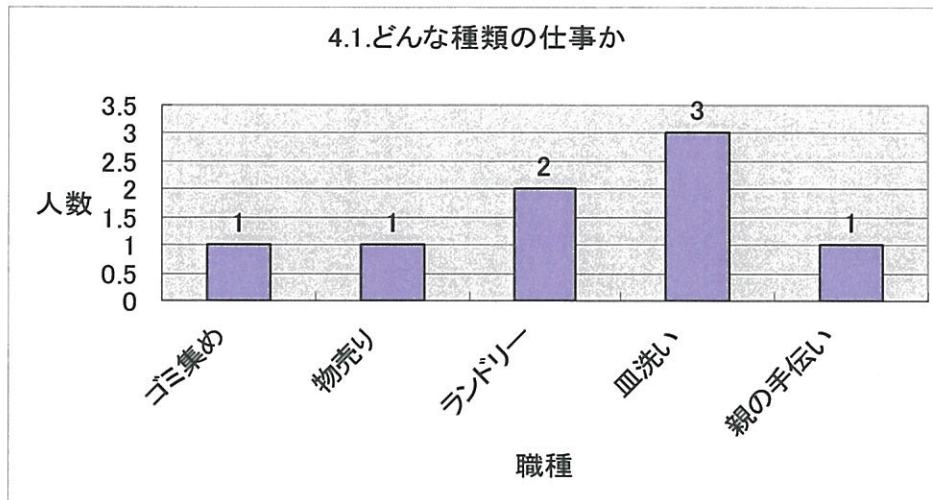


半数近くの子どもが働いているようだ。

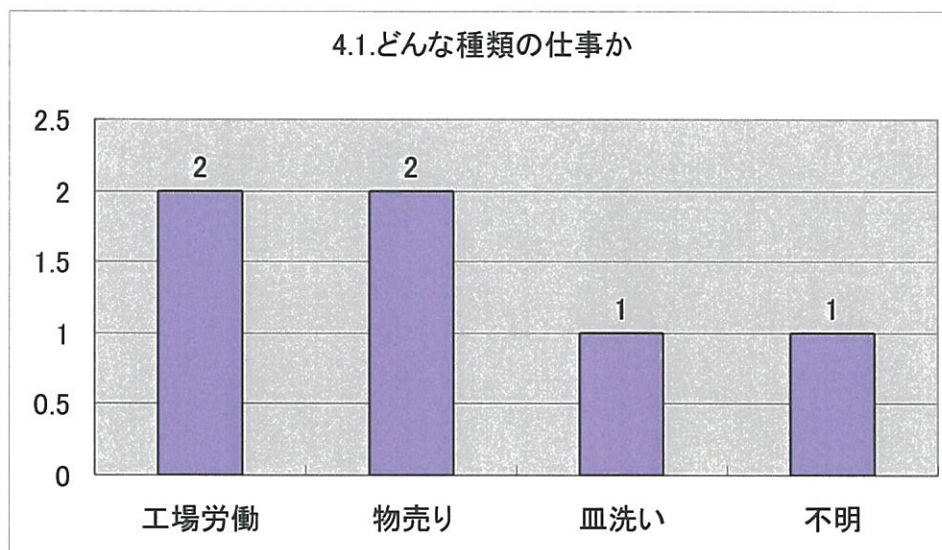
働きつつ教育を受けるためには、ノン・フォーマル教育が重要な役割を果たすと考えるが、(3.1)の質問のように、働きつつもノン・フォーマル教育によって、教育を受けている子どもたちがいるであろうことが予想される。

(4.1) どんな種類の仕事か

Steung Meanchey スラム



Rolear Kor I スラム

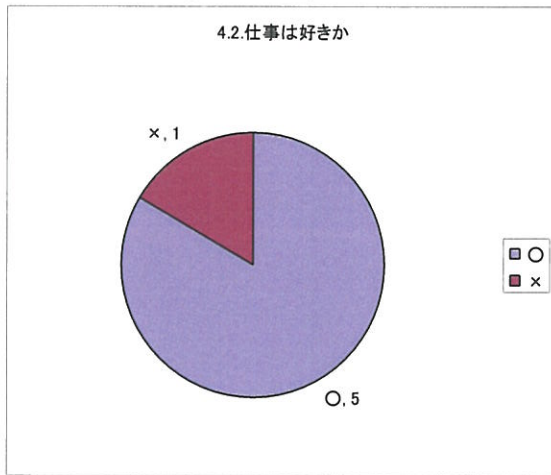


途上国で多く目にするのできる、物売りやゴミ集めなどの路上での児童労働は、意外と少数派のようである。それ以上に、親の手伝い(家事¹・賃金労働問わず)が多いようだ。

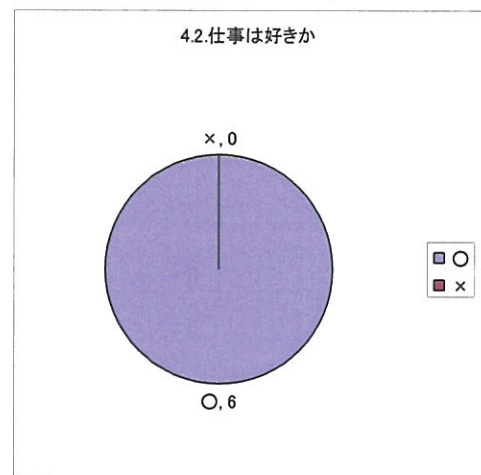
¹ 家事労働は児童労働と区別されるべき、という考え方もあるが、ここでは子どもの主張を尊重し、含めることした。

(4.2) 仕事は好きか

Steung Meanchey スラム



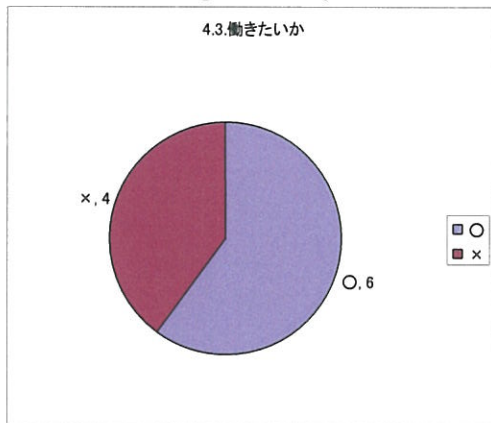
Rolear Kor I スラム



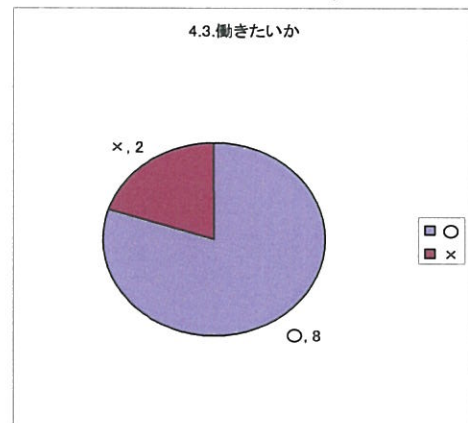
多くの子どもが、働いていることを肯定的に捕らえているようだ。その理由はおそらく、(4. 3.1)の質問にあるように、家族を助けている、という気持ちからくるのであろう。

(4. 3) (現在)働きたいか

Steung Meanchey スラム



Rolear Kor I スラム



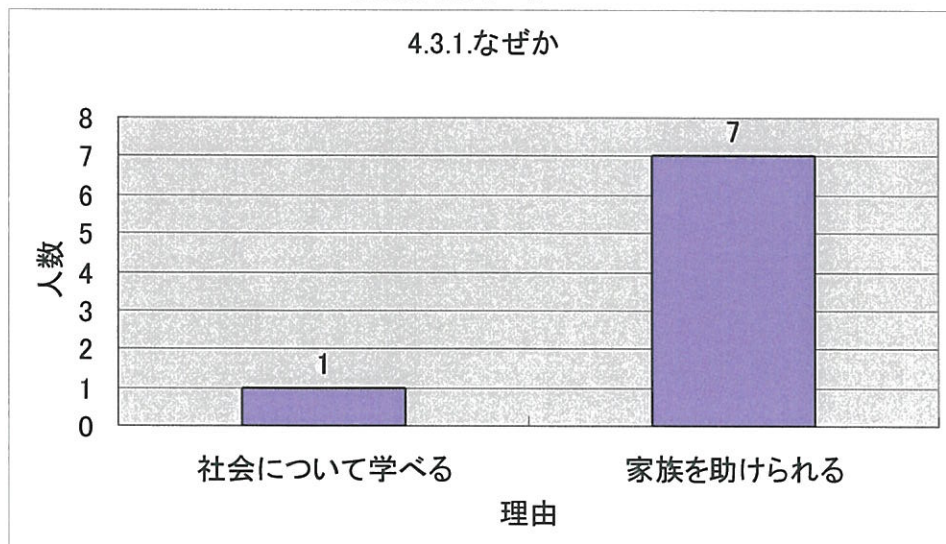
現在働いていない子どもたちは、働きたいと思っているのかどうか、質問した。結果、多くの子どもたちが働きたいと考えているようだ。特に、(4)の質問で労働率の高かった Rolear Kor I スラムでは、働きたいと考える子どもの割合も高く、労働を身近に捉えているのであろうことが伺われた。

(4. 3.1) なぜか

Steung Meanchay スラム

データなし

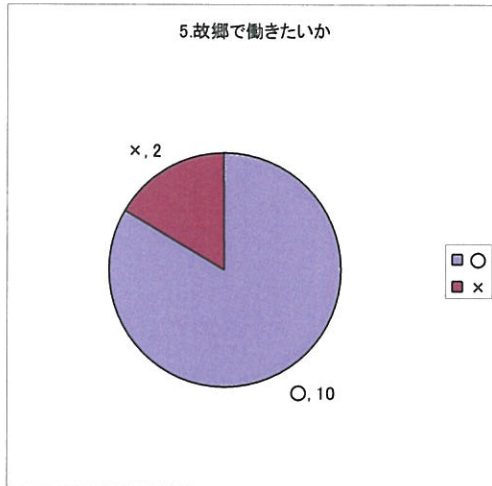
Rolear Kor I スラム



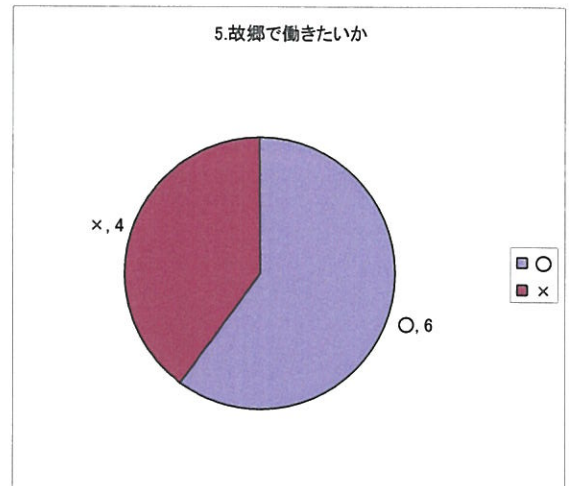
やはりというか、家庭の経済に貢献することを理由とする回答が多かった。

(6) 故郷で働きたいか

Steung Meanchey I スラム



Rolear Kor I スラム

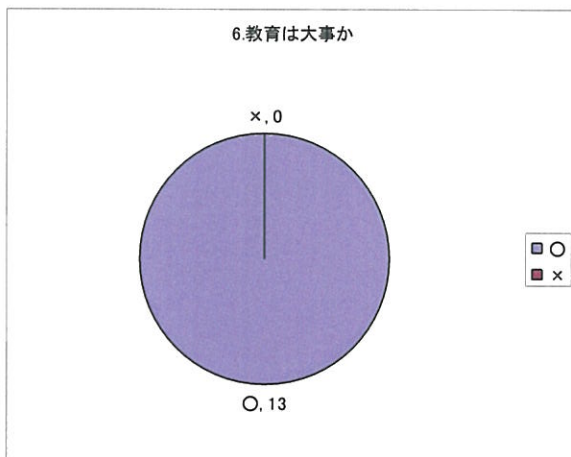


回答の結果が全く予想できない質問だった。故郷でもプノンペンでもいろいろな経験をしているであろうから、どちらがよいと思っているのか疑問だった。

さまざまな理由により都市へ移住せねばならなかったのであろうが、多くの子どもが故郷へ帰り、そこで働きたいと考えていることがわかり、大変興味深かった。

(7) あなたにとって教育は大事か

Steung Meanchey スラム, Rolear Kor I スラムともに、

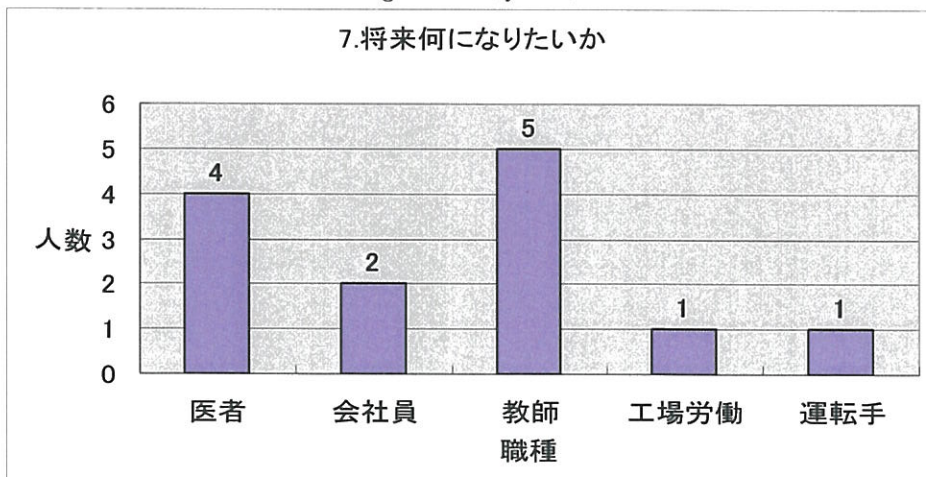


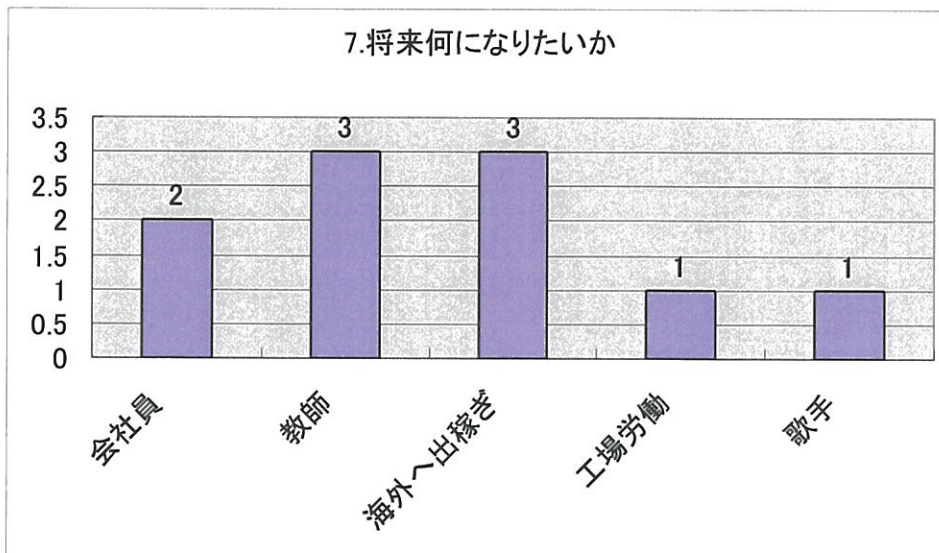
予想されていた回答どおりとなった。

やはり皆教育の重要性は理解しており、予想されていたとはいえ、この事実は大切であると感じた。

(8) 将来何になりたいか

Steung Meanchey I スラム



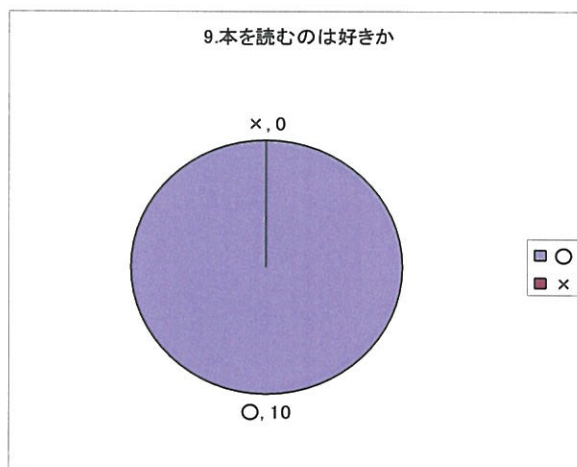


やはり教師は人気のようにある。会社員になりたい、という子どもも一定数おり、以外であった。

興味深いのは、同じ回答を用意したにもかかわらず、「医者」と「海外へ出稼ぎ」がそれぞれに回答者なしか、人気を集めているか、のどちらかであることだ。特に、「海外へ出稼ぎ」は、Steung Meanchey にて全くなかった回答であり、このスラムは(2)の質問により海外出身、あるいは国境付近出身の子どもが多かったところである。自らがすでに海外へ出稼ぎ経験者である、という認識があるのであろう。

(9) 本を読むのは好きか

Steung Meanchey スラム, Rolear Kor I スラムともに、



移動図書館活動を行っている中でのインタビュー、およびアンケートであり、SVA の図書館活動が活かされていることを実感した。

【親】

スラムの親に対する調査は、ほとんど行うことが出来なかった。集められたサンプルも、4 件のみで、ケーススタディなどに使用されるべきものである。そのような理由から、グラフを作成することは行わない。

4. 農村

質問内容は下記の通りである。

【子ども】

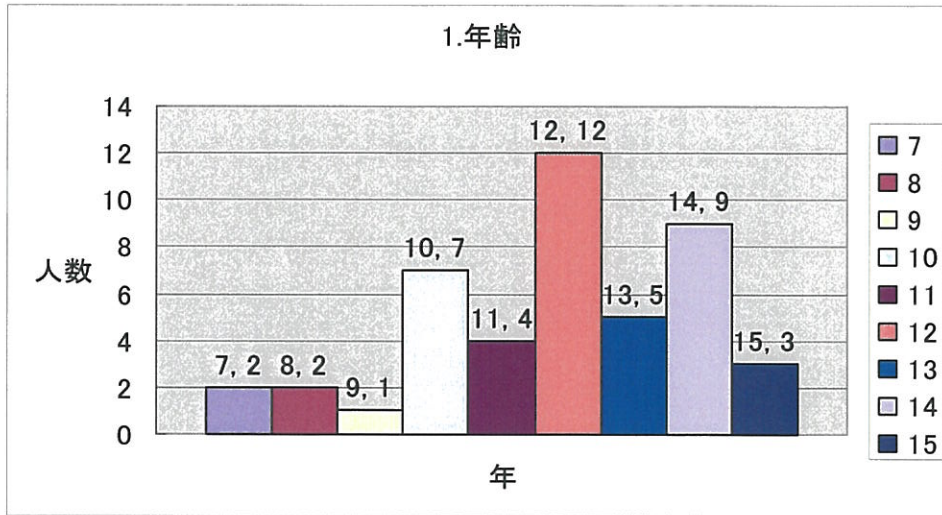
- (1) 年はいくつか
- (2) 仕事をしているか

はい(→3)

いいえ

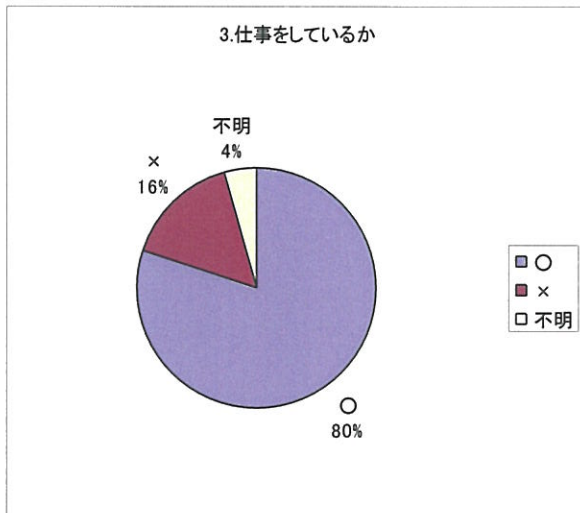
【子ども】

(1) 年はいくつか



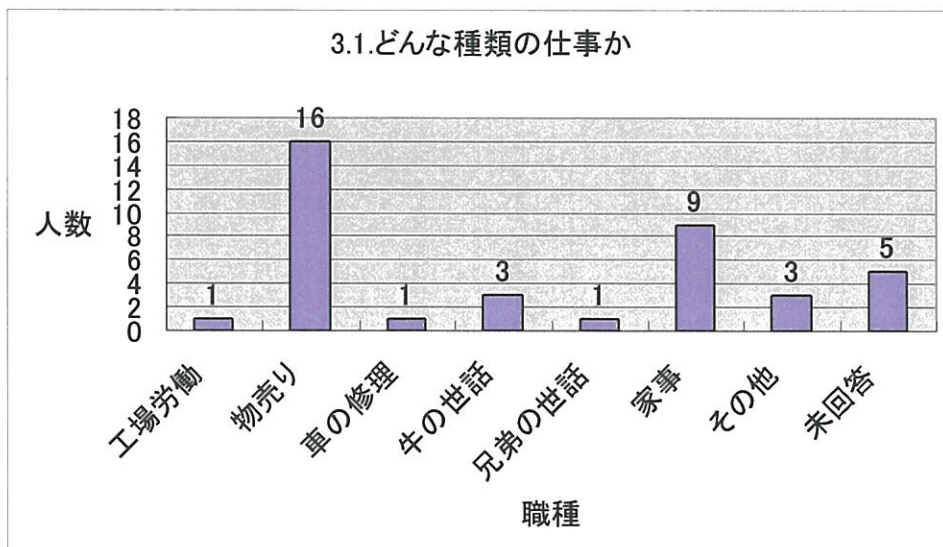
小学校でのアンケートとなったが、上は15歳までおり、カンボジアの基礎教育終了までの過程がいかに厳しいものであるかが分かった。

(2) 仕事をしているか



ほとんどの子どもが仕事をしているようである。しかし、調査時は夏休み中であるから、夏休み限定であるかもしれない。

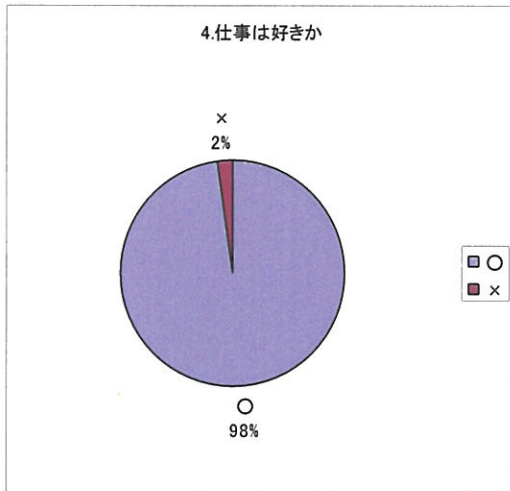
(3) どんな種類の仕事か



物売りが圧倒的である。学校での物売りなのか、外での物売りなのか分からないが、外での売り場がないことなどから、学校での物売りであると考えられる。農作業という項目を作成しなかったが、家事に含まれている可能性もあると思われる。

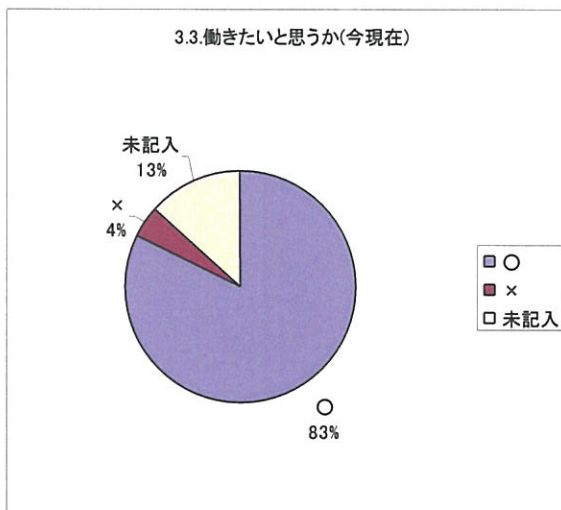
スラムに比べ、多様な労働形態があるようだ。

(4) 仕事は好きか



スラムと同様、子どもたちは労働を肯定的に捉えているようである。(4)のなぜならば…の回答にあるように、これも家族を助けている、という気持ちからくるのであろう。

(5) (現在)働きたいと思うか



なぜならば…

